

L'aile d'Howl



【ライル・ドウル:ホウルの翼(仏語)】

July 2015

岩手県内体育大会は男女ともに富士大学が制する！

7月4日～5日、富士大学スポーツセンターを会場に、第67回岩手県民体育大会(成年の部)が開催されました。今大会に合わせて帰郷し、ふるさとのチームで出場する選手たちも多く、会場では懐かしい顔がたくさん見られ、試合の合間に旧交を温める姿がありました。

まず女子の部ですが、わずか5チームの出場となり、参加チームの減少は非常に残念でした。その中で、県リーグでも上位を走る富士大学、そして不来方クラブが決勝へと駒を進めました。走力、体力ともに勝る富士大学に対抗し、元韓国代表の張素姫選手を擁する不来方クラブは、切れ味抜群のフェイントからのカットインシュートや、技ありのポストパス等で会場を沸かせ、前半は互いに一歩も引かない展開となります。後半、会場の暑さに体力を削られる中、最後まで奮闘した不来方クラブでしたが、最後まで攻撃の手を休めなかった富士大学に軍配が上がりました。

男子の部は、関東学生リーグ等でしのぎを削る学生たちが加わった不来方クラブ、柳家矢巾クラブ、白聖クラブ、そしてHC岩手などが順当に勝ち上がっていきます。地元の花巻クラブも初戦で不来方クラブと対戦し、前半は互角の戦いを演じましたが、大学4年生が多く加わった布陣に、最後は押し切られる形となって敗れました。長年培った不来方高校OBの選手層の厚さを改めて感じる結果となりました。



迎えた2日目、HC岩手が先輩の風格を見せて、大学1～3年生主体の柳家矢巾クラブを下し、またホームコートで戦う富士大学が白聖クラブに走り勝ち、決勝進出を果たしました。まさに一進一退の展開となった決勝戦は、富士大学が前半3点差で折り返したものの、ここぞという場面で確実に得点を挙げたHC岩手がリードを譲らず、大方の予想どおり延長戦へともつれ込みました。HC岩手も必死に食い下がりますが、最後はHC岩手のフリースローからのミドルシュートをブロック、そのこぼれ球を拾って速攻に出た中花仁選手(花巻クラブジュニア→花巻北中→不来方高)が決勝ゴールをたたき込み、ゲームセット。富士大学が男女アベック優勝を果たし、岩手県民体育大会が終了しました。

また、その翌週12日に小学生部門の試合が開催され、高学年男女の部はともに矢巾フェニックスが優勝、リトルハンドが準優勝という結果になりました。なお、この大会は上位大会への予選会を兼ねており、その結果矢巾フェニックス、リトルハンドの2チームが8月に山梨県で開催されるチェリーカップ東日本大会、3位～4位となった花巻クラブジュニア、ヴォルペ滝沢が12月に福島県で開催される東北ブロック大会に出場することが決定しました。さらに練習を積んで、上位大会では良い結果を出してくれることを期待しています。

全国クラブ選手権東地区大会に花巻クラブが出場しました！

7月11日～12日、山梨県甲府市において開催された第35回全国ハンドボールクラブ選手権大会・東地区大会に、花巻クラブが出場しました。7月10日金曜日、夕方からの代表者会議ならびに開会式に出席するため、監督及びチーム代表者数名を伴って一足先に山梨県入り。夜は同じく岩手県から大会に出場する白聖クラブのメンバーと決起会。甲府名物の「ほうとう」をいただいて、互いの健闘を誓い合いました。

翌日は、気温35度の状況で体育館の空調なし！汗でボールが滑り、中には床が滑って転んだ拍子にOFプレイヤーに接触し、退場になっていた選手もいました。このような環境の中、迎えた対戦相手は大崎電気OBが中心となって結成された東京都代表のラージェスト。現在大崎電気コーチの佐藤良彦さん(岩手県出身、不来方高卒)や、





なんと昨シーズンを持って選手を引退した琉球コラソン GMの水野裕矢さんがいるではないですか！試合はと言いますと、相手に臆することなく戦いましたが、大人になってこれほどまでに体格差を感じるのか、というくらいの当たりの強さでした。DFの中に切っていくプレーでは、その都度ガツンガツン当たられ、押し戻される感覚でした。試合は30-16で初戦敗退でしたが、実業団仕込みのプレーを体感できただけでも面白かったです。個人的には、全国の指導者研修会等でお会いした方々が役員や選手として参加していて、会場でみんなと再会できたこともいい思い出になりました。

県中総体は男子・矢巾中、女子・矢巾北中が全国大会出場決定！

毎年恒例、海の日三连休に開催された第62回県中総体は、ここ花巻市で来月開催される全国中学校大会への出場権がかかる試合とあって、初日から熱戦が繰り広げられました。優勝を目指して戦いに挑んだ花巻勢の試合の様子を振り返ってみましょう。

花巻北中男子は、紫波第一中との初戦。徐々に調子を上げ28-21で初戦突破しました。続く準々決勝は矢巾中との一戦。前半を18-5で折り返すと、エースの清水田圭吾選手が必死にシュートを放つも枠をとらえることができず、後半も点差を広げられ、35-10でゲームセット。春の全中ベスト16の力を見せつけられた形となりました。なお、花巻北中のゴールマウスを守った佐藤維紗 GK(花巻クラブジュニアOB)が優秀選手に選出されました。



花巻北中女子は、盛岡地区大会準優勝の下小路中との対戦。上背はないもののスピードある攻撃を仕掛けてくる下小路中に対し、花巻北中は決定力不足に悩まされ、大きくリードを許してしまいます。後半もなかなか相手ゴールを割ることができず、31-7と大敗を喫してしまいました。この悔しさをバネにして、新人戦では初戦突破を目指して頑張してほしいものです。

花巻中女子は、北陵中との初戦、前半で大きく点差を広げると、順当に翌日の試合へと駒を進めます。迎えた相手は優勝候補筆頭の矢巾北中。花巻中はDFが機能し、抜かれてもカバーがしっかり対応。鋭いフェイントでDFの間隙を縫ってくる矢巾北中の攻撃を見事に封じ、6-5というロースコアで後半に突入します。引き続き粘りのDFからの速攻などで加点していく花巻中でしたが、中盤に差し掛かりエースが怪我で戦線離脱。攻撃の足が止まってしまった花巻中はスパートが一步遅れ、16-14という僅差で負けてしまいました。最終的に、矢巾北中と最も接戦となった試合はこの一戦でした。あと一步というところで女王の牙城を崩せず、非常に悔しい思いをしました。

なお、持ち前のシュート力だけでなく、今回はDFでも奮闘した石亀萌夏選手(花巻クラブジュニアOG)が優秀選手の一人に名を連ねました。

花巻中男子は、地元での全国大会出場に向けて緊張のスタート。初戦で滝沢南中に勝利し、2日目も上田中を相手に33-24で勝ち、大会最終日まで残りました。ここで勝利すれば全国大会出場が見えてくる準決勝、大宮中相手にどこか気持ちが入っていない雰囲気。相手の長身左腕ポストに得点を許し、DFがしまらない状態のまま後半へ。前半2点だった点差は徐々に開き始め、試合終盤では3位決定戦に備え控えのメンバーに交代する展開。闘争本能が感じられないまま準決勝敗退となった感じがして、とても残念でした。その後迎えた代表決定戦では、黒石野中相手に前半同点で折り返しますが、最後の最後で1点の重さに泣かされ、19-18で試合終了。3年生の夏がここで終わってしまいました。なお、左腕エースの千葉遥貴選手、確実なサイドシュートでチームを支えた石崎裕也選手(ともに花巻クラブジュニアOB)が優秀選手に選ばれました。

男子の部は、矢巾中が圧倒的な優勝。女子は、厨川中の怒涛の追従を振り切った矢巾北中が5年ぶりに頂点に輝きました。どちらのチームも、花巻市で開催される全国中学校大会で躍動してくれることを期待しています！



L'aile d'Howl (ライルドウル)

2015年7月号

2015年7月25日 発行

発行: 花巻市ハンドボール協会